

合格体験記 22

慶應義塾大学 法学部 政治学科 進学

他の主な合格校：早稲田大学商学部（早慶に絞って3学部のみ受験した）

1 志望校決定について

3年の10月（それまでは一橋大学志望だったので5教科7科目勉強していた）

- ①以前、新聞を読んでいた際に記事の内容を理解することができず、自分の社会に対する理解、関心が極めて低いことに失望したため。
- ②私立大学トップということもあり、全国から自分の能力を遥かに凌駕する優秀な生徒が集まると考え、その環境下で学ぶことで成長につながると思ったため。

2 学習計画について

(1) 1、2年次の学習について

〈英語〉英単語、文法を完璧にした。（完璧というのは瞬時に出てくるということ）

〈日本史〉授業中心 〈現代文〉読書、新聞

〈古文〉文法を完璧に、単語は少しずつ進めた 〈漢文〉授業のみ

（一橋大学志望だったので数学、理科基礎もしっかりとやっていた）

入学後すぐのスタディーサポートという模試で得意の英語が240人中117位という惨憺たる結果だった。そこで周囲の学力の高さに驚嘆しつつも勉強に対する意欲が湧き、英語の授業で配られたプリント（教科書の内容）を一字一句暗記するようにした（CDと共に）（言語はどうしても最初は暗記が必要なので耐えて、頑張ろう）。これにより、自分の英語力の土台が固まったと思われる。それからは常に学年順位で一桁を取るようになった。

1年時はとにかく学校の配布物を全て吸収するつもりでやっていた。2年になって余裕が出てから参考書を買うようになった。

(2) 2年3月から受験本番までの具体的な学習法

① 授業の受け方

かなり早い段階で予習をしておき（参考書など比較的柔らかく書かれているものを使った）、授業で復習するという形を取っていた。

② 計画の立て方

計画に対しての実行力が無かったため、大まかなもので済ませていた。

③ 心構え

入試を常に意識して、日々勉強する。（今日の勉強が入試に直結していると毎日考えていた）

④ 自学自習の仕方

〈英語〉英文中の単語で、単語帳に記載されているものに関しては逐一確認し、単語帳の該当箇所を数回読んだ。1つの単語を幹として、関連する派生語を枝のように確認していった。（文

法も同様)

〈日本史〉通史が終わったら資料集と同時並行で教科書を1周音読した。(この際、段落や見出しなどで細かく区切る。人物、年号、場所で色分けした)2周目の音読は知識の整理として。3周目で一問一答と並行してやる。その後、一問一答を中心に据える。一問一答の1周目は分からないものに印をつけていく。2周目も同様。3周目で分からなかったものを復習。4周目で全ての問題をやり、5周目以降は分からないものを中心に復習に徹した。

〈現代文〉参考書で「文章を読む」ということの何たるかを学び、それを入試問題で再現できるようにした。

〈古文〉文法、単語を完璧にした後、「力をつける古文」を活用した。(敬語、副詞の慣用表現、係結び、初見の単語等を色分けし、敬語は敬意が誰から誰なのか書き込んだ)

〈漢文〉「漢文必携」を完璧にした後、問題演習を重ねた。

(3) 利用した参考書・問題種、その利用法

〈英語〉 ・鉄壁→vintage(文法と語法と必要なら会話表現で十分)→解体英熟語
・基本はここだ!→基礎英文解釈の技術100(極めて大切、かなりの良書)→ポレポレ(英文解釈は文の構造を瞬時に理解するために必要。とにかくやり込むべき)
・やっておきたい英語長文300→500→700

〈日本史〉教科書、資料集、東進の一問一答、用語集(気になった単語や過去問であたった初見の単語をマーカーで印付けして定期的に復習)

〈現代文〉現代文キーワード読解(長文の方を読んで要約を実際に書くことを継続した結果、かなり実力がついた)入試漢字2500、現代文開発講座(かなりの良書)

〈古文〉古文単語330(学校で配られたもの)、古典文法演習ドリル(市販の直接書き込むもの。学校で自由に取っていいものの中にあった)、力をつける古文、センター過去問

〈漢文〉漢文必携、センター過去問

(4) 模試の活用方法

模試は一度復習するだけだった(今思えば、模試はほぼ意味なかったと思う。緊張感を味わうには最適だが)が、苦手分野を明確化し、それに基づいて参考書を復習した。模試は一度復習するだけだった。「偏差値、判定に固執するな!」とよく言われる。これは本当に正しい。しかし、一喜一憂するのも大事。勉強の原動力となるし、自分の立ち位置が分かる。

(5) 予備校の活用方法

予備校は使わず、参考書で自学をしていた。分からない部分も極力は自分で考え、それでも分からない点は友人と一緒に考えた。

(6) 部活動・行事・委員会活動・趣味などとの学習の両立

部活動や学校行事には積極的に参加すべきである。中途半端にやるのが一番失敗する。集会で単語帳を持って行ったり、内職をすることなどは非常に効率が悪い。仮に友人がそれらをしていて

も 10 分集中して取り組めば確実に取り返せるし、むしろそっちの方が習熟度が高い。

(7) 後輩へのアドバイス

- ① 単語や語句などで間違えたものを裏紙などに簡単にまとめて登校中や暇な時間に見た。その情報に目を通す回数を増やすことで、定着率を上げることができる。
- ② 自分が取り組んでいる参考書のうち、中心となるものを決め、他の問題集等が出てきたものを、その中心の参考書にメモして情報の一元化に努めるべき。
- ③ 休憩や睡眠は十分に取るべき。自分も集中できない時は YouTube やテレビを 30 分と決めて、観ていた。そのあとが大事だ。切り替えよう。それができるかどうかで結果は変わる。
- ④ 受験は「逆算」が大事だと思う。つまり、「なぜ自分はその大学で学びたいのか」もっと言えば、「なぜそこでないかダメなのか」ということを掘り下げていき、最後に「だからこの大学を志望する。」と終わられるようにするということである。そうすることで、途中で勉強を放棄したり、鬱になったりすることを防ぐことができる。「ただなんとなく周りが大学に行ってるから私も大学受験をしよう」というようになることなく、高い意識を持ち続けて欲しい。
- ⑤ 自分の行きたい大学を突き通し、周りの目を気にすべきではない。私は担任に、GMARCH のいずれかを受験するよう、かなり強く勧められた（浪人したときに自信になるからだそうです。三者面談でもたくさん浪人の話をされて、期待されてないことがわかりました）が、GMARCH はおろかセンター試験も受けず、早慶だけに絞って受験をした。それは周りの目を気にすることなく、自分を突き通した結果だと思う。この例は極端だが、是非とも自分の志望に誇りを持ち、周囲を気にせず受験に挑んで欲しい。

(8) 高校生活全般についての感想・意見・反省

ムサキタはとても良い学校だった。かなり友人に恵まれた。おそらくこんな性格のいい奴らは全国でも数少ないと思う。部活や行事を最後まで目一杯楽しむことができた。一片の悔いなし。

(9) 合格した時の喜び

それはそれは嬉しいものでした。実際に合格すれば分かります。